湘南医療大学
ティーチング・ポートフォリオ

大学名　湘南医療大学
所　属　保健医療学部看護学科
名　前　塚原　ゆかり
作成日　2026 年 5 月 26 日

1.　教育の責任

本学看護学科の学生は卒後看護職に就く。在宅看護論は統合分野の一科目であったが、2022 年カリキュラム改訂後、在宅看護論は専門分野に位置づけられた上で、地域・在宅看護論と名称が変わり、療養者を含めた地域で暮らす人びとと家族の理解と、地域における多様な看護の基礎を学ぶことが明確化された。現在、カリキュラムの移行期であり、旧カリキュラムにおいては、「在宅看護学概論」、「在宅看護方法論Ⅰ」、「在宅看護方法論Ⅱ」、「在宅看護学実習」と 1～3 年次まで積み上げを意識した構成になっている。新カリキュラムにおいては、移行段階で在宅看護方法論が専門科目としてあるが、他の科目においては横断的な科目であり、協力をしながら、「ナーシングプロセスⅡ」や「慢性期看護実習」等において授業展開を行っている。

私の職位は講師であり、在宅における療養者を含めた地域で暮らす人びとと家族の理解、多職種連携のあり方等、在宅看護学の理解を深められるよう指導していく責務がある。私は 2015 年から湘南医療大学に所属し、2016 年から 2024 年までの旧カリキュラムにおいては、在宅看護学領域の在宅看護方法論Ⅰ、在宅看護方法論Ⅱ、在宅看護学実習、統合実習の 2～4 年次までの科目を担当した。また、4 年次選択科目である実践看護論Ⅵ（補完療法とフットケア）を担当し、健康上の課題に折り合いとつけながら、生活する人々の安寧を高める援助を指導していく責務がある。新カリキュラムに伴って、「看護基盤実習Ⅰ」、「看護基盤実習Ⅱ」、「ナーシングプロセスⅡ」の演習を担い、2026 年より「プロフェッショナル論Ⅱ」、「看護研究」の科目も加わり、看護基礎、継続教育における土台つくりを助ける責務がある。加えて、「在宅看護方法論」と、「慢性期看護実習」、「統合実習」における在宅関連の実習を担っている。

学年	科目名	内容
2 年次 旧カリ	在宅看護方法論Ⅰ （必修）	訪問看護活動に必要な在宅看護や在宅医療技術について最新の知識、技術を学び、実践力を養う。また療養者の在宅生活の実際を知り、個別性の高い在宅生活の状況に応じた療養者および家族・介護者への訪問看護支援の多様性を理解する。
3 年次 旧カリ	在宅看護方法論Ⅱ （必修）	既修の各看護専門領域での学修を統合して再度学修する。的確な情報収集とアセスメントを通して、誰もが確実に実践できる具体的な看護過程を在宅の場で展開することによって、在宅看護実践力の基礎を身につける。
3 年次 旧カリ	在宅看護学実習 （必修）	在宅療養者とその家族に対する看護実践を通し、対象者の価値観や生活を尊重した看護過程を学修する。在宅療養者を中心とする保健・医療・福祉

		などの多職種が連携し、地域包括ケアシステムの中のチームケアを理解し、地域において活動する看護職の機能と役割を学修する。
4 年次 旧カリ	実践看護論Ⅵ（旧; 在宅看護方法論Ⅲ） （選択）	看護の対象となる人をより統合的（ホリスティック）に捉え、健康な人から健康に障害を持つ人が自身のセルフコントロールにより個人の well-being（安寧）を高めるために役立つリラクセーション技法を学ぶ。また健康上の課題に折り合いをつけながら生活する人の well-being（安寧）を高めるための援助技術としてアロマセラピー、手のケア、足のケア方法について学習する。
4 年次 旧カリ	統合実習（在宅看護）（必修）	これまでの既習学習を統合させ、看護の対象に看護理論および基礎看護技術等の学習内容を活用・提供することを学ぶ。具体的には外来、病棟での看護実践における看護管理者、チームリーダー、メンバーの役割とその実際を学習する。また、複数の患者を受け持ち、優先順位をつけて看護を実施する方法を学び、臨床現場で行われている看護実践の実際を学ぶ。またチームの一員として協働する心構えを学ぶ。さらに卒業や卒業後を視野に入れて、卒業までの基礎知識や看護技術における自己の学習課題を明確にする。
3 年次 新カリ	在宅看護方法論 （必修）	在宅療養者の自立支援に対する考え方や対象者との信頼関係の構築、療養生活の安定を図るための日常生活援助技術、医療依存度の高い療養者に対する在宅支援、在宅療養生活における健康危機管理や感染予防、在宅療養者とその家族を中心とした多職種連携の実際などについて学修する。また、様々な発達段階にあり健康上の課題をもって生活している在宅療養者とその家族・介護者に対するエビデンスに基づいた訪問看護の思考過程について学修する。
3 年次 新カリ	ナーシングプロセス Ⅱ(必修)	ナーシングプロセスⅠで習得した思考を基盤とし、あらゆる年代やさまざまな場における対象者への健康問題・課題への看護実践に活用できる能力を身につける。

3 年次 新カリ	プロフェッショナル論Ⅱ(必修)	プロフェッショナル論Ⅰを基盤として、社会で活動する看護プロフェッションとの交流を通して臨地実習で培うべき自己の課題を明らかにする。
3 年次 新カリ	看護研究(必修)	看護研究の目的と意義、倫理的配慮の重要性、看護実践と研究の関連性、研究の進め方等看護研究の基礎的事項について学修する。
3 年次 新カリ	慢性期看護実習 (必修)	慢性疾患を抱えあらゆる場で療養・生活している対象者及び対象者を取り巻く人々がその人らしく生きることができるよう地域包括ケアにおける医療チームの一員として、安全かつ個々の健康の維持・増進と QOL の向上を目指した看護を学修する。
4 年次 新カリ	統合実習(在宅看護)(必修)	これまで学んだ知識・技術・態度を統合し、実践現場に近い体制の実習を通して医療チームの一員としての役割とその実際について学修するとともに、看護専門職としての自己の課題を明確にする。

2. 私の理念・目的

1) 私の理念

私の理念は、自ら考え行動する力を持てることと、ケアリングの力の育成と向上である。

(1)自ら考え行動する力を持てる

学生が、自ら考え行動する力を持てるよう場を整えることにある。

そして、その力を看護場面において、発揮できるようになることを目指している。そのために、学生の主体性の尊重と成長の機会の提供を心掛けている。また、学生の状況や特性に応じた支援を意識しながら関わっている。

(2)ケアリングの力の育成と向上

ケアリングの力を培っていくにあたって看護の実践においては、人を全人的に理解する必要性があり、看護師は意識的に心からその人を知ろうとする力が必要である。そのために、相手に興味関心を持ち、相手に対しての「気づき」が、重要と考える。特に、臨地実習において、その場でしか感じ取ることのできない感覚に意識を向けさせ、学生個々の「気づき」につなげられるよう取り組んでいる。その「気づき」から、患者、あるいは療養者、家族に対して、最適な看護のあり方を考えるプロセスを通して、対象者の価値観と経験に敬意を払うことで、対象者の力を引き出せる看護につながることを期待している。

2) 理念をもつに至った背景

これまで、主に訪問看護の中に、アロマセラピー、リフレクソロジー等の補完代替療法とドイツ式フットケアを取り入れ、より看護ケアの幅を広げ、質の向上を目指してきた。そこには、在宅で、療養者と家族がその人らしく生き、QOL の維持、向上のために、もっと看護師として何かできないか追求した結果、補完代替療法の一つであるアロマセラピーにたどり着いた経緯がある。アロマセラピーを取り入れた訪問看護を行い始めて 20 年近くになるが、その経験上、療養者や家族の QOL の維持、向上にアロマセラピーが役に立っているという確かな手ごたえを感じている。特に、アロマセラピーの実践方法の中でも、タッチングの要素のあるアロママッサージは症状緩和やリラクセーションにつながるため、療養者にも家族にも、いい変化をもたらしやすい傾向にあった。治療の限界にいたりやすい終末期のがん等において、このようなアロママッサージを取り入れた看護ケアは、看護師だからできることだと思われる。

よって、このような経験から、対象者の多様な個別性を鑑み、その人らしく生きていくために、対象者の持っている力をより向上させるために何ができるか探求していく姿勢が必要だと考えた。そのためには、気づくことと考えることは看護を行う上で重要と考えた。

3. 教育の方法・戦略

授業、チューター指導(授業以外の諸活動、自己研鑽含む)について述べる。

1）授業

在宅看護学の授業がスムーズに行えるよう授業環境を整え、学生の学修意欲を高められるよう授業・実習準備を行い、授業・実習の展開を図る。また、「看護基盤実習Ⅰ」等においても、十分に実習準備を行い、実習の展開を図るよう努めている。

1）在宅・公衆衛生看護実習室 日常生活動作実習室の備品、消耗品の管理、整理整頓を行い、円滑な授業準備、展開につながるよう取り組んでいる。

2）在宅看護の授業・実習の準備等、領域会議等で確認しながら行い、授業・実習を他の教員と調和して協力するよう心掛けている

3)リアクションペーパー等から学生の意見を反映して授業を行い、質問等があれば、次回授業開始時に答えて、授業の振り返りにつなげて、興味関心を高める様意識している。

4）実習施設において、実習における調整を指導者の方と十分行い、学生にとって最適な実習環境となるよう取り組んでいる。

5）大学における看護教育の指導法や在宅看護に関連付けられるセミナーや学会に参加し、授業に役立てている

2）チューター指導

学生が看護師になるために、自ら考え、自ら行動ができる学生に育てるための動機付けができ、学ぶ姿勢のモチベーションの向上を図れるよう取り組んでいる。

1）チューター担当の教員とともに個人面談や必要時メール連絡を行い、学生との関係性を築き、学修意欲の向上につなげている

2）学生の健康状態を把握し、緊急時の対応も適切に行え、学生が安心して学べるようにしている

3）国試対策は個々の学力に応じ、個々に適した学修指導を学生とともに考えながら行い、国試合格につなげる学修支援に関わっている

4）卒後将来を見据え、個々に応じた就職支援、進学支援を行い、学生自身で考え決断できるよう情報提供を行っている

5）面談時、学生の考えや感じたことを訊き、行動の理由を聞く。学生の考えや感じたことを否定するのではなく、学生自らが改善すべき点や補うべき点に気づけるよう意識して関わっている

6）適切な学修方法が見出せるようコーチング、勉強法等のセミナーの参加と書籍の購入を行い、学生指導に活かすようにしている

4. 学習成果

学習成果として、授業評価を列挙する。

・在宅看護方法論Ⅱ(2023 年度):

「授業評価アンケート」の各項目の得点は、5 点満点中 4.26～4.66 点であり、総合平均得点は 4.53 で、看護学科における「授業評価アンケート」の総合平均得点は 4.39 点で上回っていた。

・在宅看護学実習（2023 年度）:

実習環境は、「臨地実習授業評価アンケート」の項目『実習環境は十分整っていた』は、5 点満点中【4.74】で、全体平均【4.63】を上回っており概ね問題なかった。

指導体制は、同項目『理解・反応を見ながらの指導』【4.92】、『助言は目標到達に活かせた』【4.79】、『教員と実習指導者の連携がとれていた』【4.86】であった。何れも95%以上の得点率で全体平均を上回っていた。

・実践看護論Ⅵ（補完療法とフットケア）（2023 年度）:

「授業評価アンケート」の各項目の得点は、5 点満点中 4.53～4.91 点であり、総合平均得点は 4.88 で、看護学科における「授業評価アンケート」の総合平均得点は 4.39 点で上回っていた。

自由記載に、「学生数が多かったが、演習の時に学生一人一人を見て丁寧に指導、声をかけて下さり、とても良かった」とあり、演習の際、個々の状態に応じた適切な指導を意識的に行った成果と考える。

・実践看護論Ⅵ（補完療法とフットケア）（2024 年度）:

「授業評価アンケート」の得点は、5 点満点中前回比較として総合平均が 4.88 から 5.0 となったが、その背景として、履修者 31 名中回答人数が 9 名であったため、点数が上がったのではと考える。演習が主体であるため、履修登録人数においては適切であったと思われる。自由記載に「実践することで楽しみながら深い知識を身に付けることができた」とあり、自身が体験することで学びが深まっていると思われる。

・慢性期看護実習(2025 年度):

アンケート項目の「教員と実習指導者の連携がとれていた」【90.4%】より、指導体制は概ね整っていたと判断できるが、「教員は学生の理解や反応をみながら指導していた」【83.6%】は、8 割を超えているとはいえ、やや低い評価となっていた。自由記述には『担当先生の発言に一貫性がない』や『先生と指導者での情報共有の内容がずれていた』『病院によって記録物の量の差があり、公平性に欠ける』といった意見も聞かれ、教員間または教員と指導者間の情報共有や指導方法の工夫を要する。

5. 改善のための努力

慢性期看護実習(在宅)における指導体制は、巡回による指導体制であり、施設に常駐できないため、教員と指導者の連携をますます図り、適切に実習における説明を十分行い、ともに実習目標を達成できるよう努めていく。

実践看護論Ⅵ(補完療法とフットケア)においては、学生が主体的に学ぶよう事前学習を課題とした。また、患者もしくは療養者および家族に対し、他者理解を要するため、まず自己理解から学びを広げていく展開で授業を行った。演習時、学生全員に個別指導を行うことで学習意欲の向上に努めた。

6. 今後の目標

短期目標:(*達成時期)

・新カリキュラム「慢性期看護実習」において、3 プログラムの内容で構成され、新たに実習施設が増えたため、ますます他教員および実習施設における指導者の方々と協力体制を築き、実習展開を円滑に行える(1/31)

・授業評価において、4.5 以上を目指す(3/31)

・新カリキュラム「在宅看護方法論」、「ナーシングプロセスⅡ」、「プロフェッショナル論Ⅱ」、「看護研究」、「看護基盤実習Ⅰ」、「看護基盤実習Ⅱ」、「統合実習」において協力的に取り組み、最適な授業と演習ができるよう、また実習展開ができるよう準備していく(3/31)

・学生の主体的かつ能動的・自律性の育成を考慮した授業および国試対策が行える。特に学力低迷者への学修支援を果たし、休退学者の防止にもつなげる(3/22)

長期目標:

・新カリキュラムは横断的な授業展開となっているため、準備、調整を適切に行い、授業が円滑に動き出すよう組織の一員として考え取り組んでいく。
・知識技術は日進月歩していくため、先を見据えた情報の獲得を行い実践し、授業や学生指導に益々活かしていく。

【添付資料】

資料 1:2022 年度シラバス「在宅看護方法論Ⅰ」
資料 2:2023 年度シラバス「在宅看護方法論Ⅱ」「在宅看護学実習」
資料 3:2024 年度シラバス「ナーシングプロセスⅡ」「在宅看護方法論」「慢性期看護実習」「実践看護論Ⅵ」「統合実習」他
資料 4:2026 年度シラバス「ナーシングプロセスⅡ」「在宅看護方法論」「慢性期看護実習」「統合実習」他
資料 5:授業評価アンケート 2024 年度「実践看護論Ⅵ」
資料 6:2025 年度第 2 回臨地実習指導者会議資料